

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJR東日本！ シリーズ4】 日一日とメッキが剥がれていく「JRの妖怪」その

「JRの妖怪」と称される松崎氏のこれまでの言動や記述を注意してチェックすれば同氏の“本性”や“品性”を感知することは容易である。

「7名の仲間たちが直接的には弾圧を受けましたけれども、本質的にはJR東労組やJR総連の労働組合への弾圧です」「この弾圧の中で会社の幹部の皆さん方が、『7人のいるところには参加できない。われわれは裁判闘争のゆくえを冷静に見る』というようにいろいろ言われていたそうですけれども、私はこれは間違っていないと思うんです。会社が事態を客観的に見つめ、判断することは当然のことだと思います。そういう意味では、会社側といろいろ議論をしたことはとても大事なことだし、これからも会社といろいろ議論していったほうが良いとは思いますが、でも会社がそうやって否定したから、だから会社は悪だという単純な一面的なものの見方というのは私は正しくはないと思うんです。会社の皆さん方の置かれている立場ということについても、われわれは可能な限り理解する、理解した上で、おかしかつたらおかしいと言えればいい。

・・・「たとえば『憲法改正賛成』という人がいるはずですよ。わが組合員の中に少なからずいるはずですよ。北朝鮮やちまえと、イラク？行け行け、という人もいます。だって組合員も国民ですから」「だから、『憲法改悪反対集会に行こう』と言ったときに、『オレは賛成だから行かない』という組合員がいて当然じゃないですか。それを有無を言わず、『お前は反組合的だ』と言ってなにか生産されますか。

私は生産されるとは思いません」・・・ですから今まではたとえば労働組合がいわゆる『動員』で人々を集会に参加してもらって、参加を通じてその個人を強化する。こういう方法をとったと思うんですけれども、これからは反対の者は反対でももちろんいいわけです」

・・・「もう一回言いますが、組合員の皆さんの中には一つの課題に向かって賛成の人も反対の人もいます。無理強いしてはダメです。議論は必要だけれども、当然反対の人と賛成の人はそういう立場があつていい。それが労働組合だ」「おそらく今年も大変な年になるだろうと思います。『治安フォーラム』とかなんとかで、松崎は横領だとか脱税だとか言っているらしい。いくらでもデッチ上げはできるかもしれませんが、事実ではないですから。しかし、いろんなことで何としてでもやっつけてやれ、という攻撃はないとは言えません。

(松崎「新春講演<04年1月?>」<JR東労組機関誌『セミナー』第81号>)

<「松崎氏の再コペ転!？」ということでは有名な松崎語録である。筆者は『セミナー』第81号掲載のこれを特別に重視している。この松崎イズムが本当なら、「なぜ浦和電車区事件が起こったのか?」と思わず問いたくなる“意外な内容の松崎語録”が誕生するいきさつについて、JR東日本経営トップまでもが主役として登場する“虚々実々のドラマ”とその舞台裏を、いわゆる「福原本」が、小説の形をかりて赤裸々に暴露している。

《国改革の完成に向けて(宗形明著)187ページ~189ページより抜粋》